

製品名: ゴルギン 45 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11577**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	BLZF1
別名	BLZF1; JEM1; Golgin-45; Basic leucine zipper nuclear factor 1; JEM-1; p45 basic leucine-zipper nuclear factor
遺伝子 ID	8548.0
SwissProt ID	Q9H2G9
免疫原	抗血清はヒト BLZF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

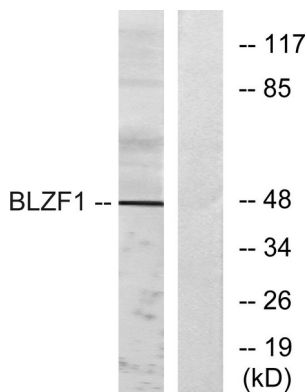
背景

注意: 潜在的な基本モチーフとロイシンジッパードメインの存在から、PubMed:9129147 と PubMed:11056056 は BLZF1 が潜在的

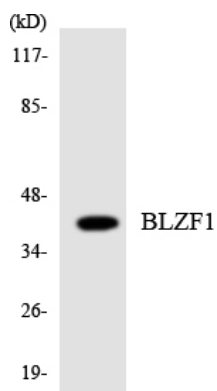
な転写因子であると考えており、アイソフォーム 2 (細胞質) を除き核内に局在することを発見した。しかし、塩基性残基または疎水性残基のいくつかの典型的な位置における相同性は欠如している。機能: 正常なゴルジ体構造と、小胞体 (ER) からゴルジ体を通して細胞表面へのタンパク質輸送に必要である。誘導: レチノイドによってアップレギュレーションされる。サブユニット: GORASP2 および GTP 結合型 RAB2 と相互作用するが、他のゴルジ Rab タンパク質とは相互作用しない。GORASP2 と BLZF1 は、内側ゴルジ体上で RAB2 エフェクター複合体を形成する。組織特異性: 普遍的。T 細胞白血病、プロ B、プレ B、骨髄腫、形質細胞腫などのいくつかの造血疾患由来の細胞株にも認められるが、バーキットリンパ腫細胞株には認められない。注意: 潜在的な基本モチーフとロイシンジッパードメインの存在から、PubMed:9129147 と PubMed:11056056 は BLZF1 が潜在的な転写因子であると考えている。彼らは BLZF1 が核内に局在することを発見したが、アイソフォーム 2 は細胞質内に局在していた。しかし、塩基性残基または疎水性残基のいくつかの典型的な位置において相同性が欠如している。機能: 正常なゴルジ体構造、および小胞体 (ER) からゴルジ体を通して細胞表面へのタンパク質輸送に必要である。誘導: レチノイドによってアップレギュレーションされる。サブユニット: GORASP2 および RAB2 の GTP 結合型と相互作用するが、他のゴルジ体 Rab タンパク質とは相互作用しない。GORASP2 と BLZF1 は、内側ゴルジ体上で RAB2 エフェクター複合体を形成する。組織特異性: 普遍的に存在する。T 細胞白血病、プロ B、プレ B、骨髄腫、形質細胞腫などのいくつかの造血疾患由来の細胞株にも存在するが、バーキットリンパ腫細胞には存在しない。

研究分野

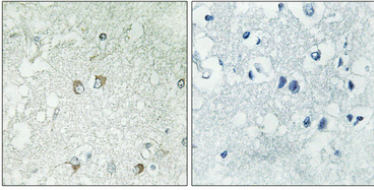
画像データ



BLZF1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



BLZF1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。